LIGHT HOUSE
ライトハウス
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711 FAX 03-3717-2721
http://www.lighthouse-jiyugaoka.jp e-mail gospel@lighthouse-jiyugaoka.jp
郵便振替口座 00120-6-170857 みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850（ライトハウス）

CFI ニュースレター C2024-03 「逆転の信仰」

[今月の聖書]

「たといまた、私に預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、私は無に等しい」(第一コリント 13: 2)
「しかし、事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。それは、死が一人の人によってきたのだから、死人の復活もまた、一人の人によって来なければならない。アダムにあって、すべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあって、すべての人が生かされるのである。」(第一コリント 15: 20 -22)
「しかし、感謝すべきことには、神は私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を賜ったのである。」
(第 1 コリント 15: 57)
「ダビデの子孫として生まれ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思っていなさい。これが私の福音である。」(第 2 テモテ 2: 8)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「逆転の信仰」と題して、復活を信じる者の力と希望についてお話ししたいと思います。今年は 2 月 14 日水曜日から 3 月 30 日までが受難節(レント)でキリストの受難を思うシーズンです。そして 3 月 31 日に復活節(イースター)を迎えます。キリスト教はクリスマスから始まったのではありません。もちろん十字架のキリストなくして、私たちの救いは無いのですが、ゴルゴダの丘の十字架から教会が始まったわけでもありません。それはキリストの復活から始まったのです。キリストの復活によって、人類の闇の歴史が逆転して、光の世界に移されたのです。

ペテロを始めとする弟子たちは、恐れと不安から解放されて、大胆な宣教者たちになりました。小さなナザレ集団と言われるイエスの一派が、ローマ帝国全域に広がるキリスト教会となりました。イエス・キリストを十字架につけよと叫んだ迫害者サウロは、復活のキリストに出会って、全く別人パウロに変えられ、地中海全域に福音を伝える伝道者となりました。

キリスト教は「死の克服」の宗教であると言われます。それは永遠の生命と復活という二つの意味を持っています。①アダムによって罪人となった人間は、時の終わりを目指して生きる死ぬべき存在となりました。②しかし、イエス・キリストの十字架によって、罪の赦しと救いを得たものは、時の縛りから解放され、永遠に生きるものとされます。③さらにこの死の克服の実証をイエス・キリストの復活のうちに見出します。私たちも信仰によってこの復活に与るものとなるのです。

誰でも現実の問題として「復活」をどう理解すべきか戸惑うことがあるでしょう。イエスの弟子トマスも、「私はその手に釘跡を見、私の指をその釘跡に差し入れ、また私の手をその脇に差し入れてみなければ、決して信じない」(ヨハネ 20：25)と言ったのです。しかし復活のイエスに出会った時「見ないで信じるものは幸いである」と言われて、命をかけて伝道する宣教者となりました。

イエスは言われました。「私はよみがえりであり、命である。私を信じるものは、たとい死んでも生きる。また、生きていて私を信じるものはいつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」(ヨハネ 11: 25.26)

さて、まもなくイースターを迎えようとする時、私たちの「復活の信仰」が問われています。内村鑑三は「人間は希望的な動物である。前に向かって希望を持つ事は自然であり、後を省みるのは不自然である。」と言いました。死の向こうに復活があります。
私たちの究極的希望は復活と永遠の命です。それは神様が信仰を持って見上げるものに下さる愛のしるしです。
「私たちの知るところは、今は一部分に過ぎない。しかし、その時には、私が完全に知られているように、完全に知るであろう。」(第 1 コリント 13: 12)
この復活の信仰は、あらゆる問題課題に遭遇する時「逆転の信仰」としてあなたを勝利に導くでしょう。
神の祝福をお祈りいたします。

(お知らせ)
＊「第一回喜びの歌を共に大阪集会」の記録 CD(2000 円) DVD (4000 円)がやっとできました。昨年の東京集会と内容はほぼ同じですが、ぜひ皆様に聞いていただきたいと願っています。
＊5 月 6 日月曜日(振替休日)淀橋教会において「第二回喜びの歌を共に東京集会」が開かれます。これは声を合わせて一緒に歌う集いです。どなたでも参加することができますが、是非登録をお願いいたします。

Let’s sing 新 Seika「喜びの歌を共に 2024」
ご協力とお祈りのお願い

昨年、1 月 20 日早朝､日本の教会が滅びていくような夢を見ました。何かできる事はないかと祈り求めていた時に、この「喜びの歌を共に」という集いを催すように導かれました。全く私の個人的な考えであり、決断でした。しかし、神様の御心であったと今感じております。

昨年 5 月 5 日､淀橋教会インマヌエルチャペルで高らかに賛美を捧げました。午前中の練習もありましたが、午後 2 時間半にわたって皆様と 16 曲賛美しました。主に信仰の証と喜び、共にいて下さるイエス・キリストと神の愛、聖霊と献身の祈りなどを歌い上げました。峯野龍弘先生が、この賛美の祈りが全国に広がっていくようにと祈ってくださいました。今までに経験したことのない喜びの歌声が天に捧げられたと思います。

昨年 9 月 18 日、大阪クリスチャンセンターOCC ホールにいっぱいの方々が集まり、大きなどよめきがありました。短時間の準備にもかかわらず､多くの教会聖歌隊や合唱団の方々も集まって下さいました｡東京と同じプログラムでしたが､阪神タイガースが優勝したこともあったのか、特別な熱情を感じました。関西のクリスチャンの方々は歌うことが好きなのだなと強く印象づけられました。

さてこのような経過でしたが、もう一度この賛美の集いを開いてほしいという声がたくさんありました。そこで「喜びの歌を共に 2024」として、
5 月 6 日振替休日(月) ウエスレアン・ホーリネス教団淀橋教会にて
9 月 23 日振り替え休日(月)チャーチオブクライストニュージーランド日本､大阪教会にて
開催する運びとなりました。

ぜひこのためにお祈りくださり、ご参加くださり、喜びの歌を天に捧げていただきたいと思います。音楽が得意であるかどうかは全く関係ありません。あなたの心にある喜びを豊かに表現していただきたいのです。まさに聖歌隊指揮者として立っている私を支えてください｡今年は信仰による勝利と前進､神と共に生きる喜びを歌い上げたいと願っています。

今コロナの影響で日本の教会は大変弱体化しています。既に高齢化は進んでおりましたが、礼拝に出席することができない方が多くなり、忠実に献金をする人々も減りました。これまで教会を支えてきた多くの熟年の信徒たちが、喜びと生きがいを持って教会に集まり、高らかに賛美する事は、今残されたチャンスではないかと思います。聖書と聖歌は信仰生活の基本であり、車の両輪のようなものです。そこに祈りの油が注がれ、聖霊の炎が燃え上がるのです。もちろんこの炎の中に、若いクリスチャンが加えられることでしょう。新しい賛美の歌が起こってくるでしょう。それを夢見ながら 2024 年ともに祈りたいと思います。

なお、8 月 31 日(土)紀尾井ホールにてヘンデル作曲「メサイア」公演を予定しています。

まさに今「霊的戦い」が始まっています。お一人お一人の信仰生活が、神の御言葉と力強い賛美によって勝利に導かれますようにお祈りしています。

小田 彰

「そして、彼らが歌を歌い賛美し始めた時、主は伏兵を設け、彼らに向かわせられたので、彼らは打ち破られた。」

(歴代誌下 20 : 22)